

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1971600240
法人名	社会福祉法人 八十八会
事業所名	グループホーム南岳荘
所在地	〒 400-0203 電話番号 055-280-5281

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成21年2月10日	評価確定日	平成21年3月3日

## 【情報提供票より】平成21年1月23日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月3日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	14人	常勤	12人	非常勤 2人 常勤換算 3.17人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての ~ 1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,500 円	その他の経費(月額)	21,219 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合 償却の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1200 円			

## (4) 利用者の概要 平成21年1月23日 現在

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.8 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三枝病院 大芝歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成21年2月12日

富士山、八ヶ岳が眺望できる美しい自然環境に恵まれ、果樹園に囲まれた広々とした敷地内に、特別養護老人ホームを母体施設として、当グループホームや小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。近くに人家はないが、道を挟んで農の駅があり販売所、芝生広場なども利用でき、そこを訪れる方々や果樹の作業をする方々との交流もある。人生の大先輩であるホーム利用者から、学ぶ姿勢を忘れずに、一人ひとりの個性を大切に持って力を発揮しながら、暮らせるように支援するための様々な課題に、管理者・職員が力を合わせて取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題は①独自の理念をわかりやすく明文化・共有②市町村との連携③同業者との交流を通じた向上④事業所の多機能性を活かした支援⑤重度化や終末期に向けた方針の共有⑥食事を楽しむことのできる支援⑦災害対策などであった。①⑤⑦については継続して検討中であり、②④については取り組みにより改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員の意見を聞きながら、管理者・計画作成担当者(リーダー)がとりまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者の状況、活動報告、事故事例の紹介などを行っており、行政からの情報提供もされている。外部評価結果については、時期がずれてしまい、報告できなかった。小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催しているため時間的な制約もあり、課題についての意見交換はあまりしていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月家族に送っているホーム便りに、要望・意見を遠慮なく寄せてほしいとお願いしているが、なかなか生の声が聞かれない。そのため、家族同士が情報交換・意見交換できる機会をつくっていきたくと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の福祉運動会や小学校の展示会の見学など、地域の行事に参加しているが、自治会活動への参加は無理と考えている。母体施設が開催する催しへの参加者との交流や、農の駅を訪れる方々や散歩中に出会う方々との交流はある。

## 2. 調査報告書

事業所名：グループホーム南岳荘

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの個性や生活スタイルを尊重し、家庭的な環境で生活するとともに地域との交流を図るといふ法人の理念のもとに、サービス提供をしており、グループホーム独自の理念はつくっていない。	○	住み慣れた地域で家族や地域とのつながりを保ちつつ、その人らしく暮らし続けられるように支援するというグループホームの特徴をわかりやすく表現した理念を検討したいと考えているので、早期の実現を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念については、採用時オリエンテーションで話されており、月1回のスタッフ会議においてはグループホームで大切にしたいことを確認し合っているが、グループホームの理念としてしっかり根付くまでに至っていない。	○	グループホームが大切にしたいこと、特徴をわかりやすく表現した理念を全職員で共有し、実践に反映されるような取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の福祉運動会への参加、小学校の作品展の見学などを行っている。また、母体施設が催す納涼会に参加される地域の方々や、ボランティアとして参加される小中学生などと交流している。散歩で出会う果樹作業中の方々や、農の駅を訪れる方々との交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の目的を話し、職員の意見を聞きながら自己評価をまとめた。また、外部評価結果はコピーして全職員に配布したが、様々な事情から課題の改善に向けた取り組みはあまりできなかった。今回はしっかり取り組みたいと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設小規模多機能型事業所と合同で奇数月に開催しており、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、管理者(兼)は共通のメンバーであり、利用者家族の代表がそれぞれ一人参加している。内容は主に利用者状況、活動報告等であり課題に関する意見交換はあまりない。	○	会議内容が報告だけでなく、課題についての検討など、できる限り双方向の意見交換ができるような工夫が望まれる。また、外部評価結果の活用や、利用者や家族の意見を出しやすくするためのメンバー構成の再検討なども望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの状況を話したり、行政からの情報提供を求めたり、手続き等に関する問い合わせをするなど連絡を密にして、利用者のサービスに反映できるように取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ホーム便りの紙面半分に事業所全体の活動や行事予定、職員の異動等、残り半ページに利用者個々の生活状況を記載し、写真を添えて家族に送っている。また、健康状態や預かり金に関することは、その都度、速やかに電話等で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム便りには、要望意見があれば、お聞かせくださいという趣旨のお願いをしているが、実際に要望意見等は寄せられていない。	○	家族会がつくられていないが、家族同士の情報交換・意見交換ができるような機会をつくりたいと考えているので、その実現を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人で採用した職員が配置されるが、母体施設からの異動は年に一人くらいに抑えている。利用者への精神的な負担を避けるために、雰囲気になれるまで、利用者の担当を特定しないで、様子を見るなど工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が毎月行う研修には、全職員が参加することになっている。ホーム内ではスタッフ会議にあわせて勉強会をしている。外部研修への参加は、勤務ローテーションの関係もあり、実際に参加できるのはあまり多くない。	○	職員の経験や段階に応じた研修への参加を、計画的に行えるように調整したり、研修内容の伝達を行う態勢を整えていきたいと考えており、その実現を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に「施設部会」はあるが、グループホームに絞った連携システムはないため、同業者との交流はあまりしていない。	○	管理者が県内グループホーム協会の幹事をしているので、そのネットを活用して、相互訪問の機会をつくるなど、同業者との交流が実現できるような取り組みを期待したい。また、市内グループホームの情報交換や、ネットワークづくりにも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅から入居される利用者には、ホームの見学や他の利用者と一緒にお茶をのむなど、ホームの雰囲気や人に馴染めるようにしている。病院等から入居される場合は、ホームから職員が訪問して馴染めるようにしている。また、入居初期は特に家族や知合いの方のホームへの来訪をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の大先輩であるという気持ちを持つよう職員に自覚を求めている。おほうとうづくりや書字を利用者から学んだり、利用者からの感謝の表現や優しい慰めのことばにより、職員が癒やされ支えられている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアや生活の場面で観察したこと、声かけに対する反応や、生活歴を考慮した投げかけへの反応などを参考にしながら、利用者の思いに近づけるよう努めている。把握したことはノートに記録し職員が共有できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	把握した利用者情報や本人及び家族の要望等をもとに、利用者が自分らしい生活を送ることができるよう支援するための課題とケアについて、関係者で話し合い、介護計画としている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月ごとに見直すこととしているが、状態の変化に応じて、期限内であっても、サービス担当者会議を開いて見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の付き添いは家族が行うこととしているが、状況により同行したり、代行したり柔軟に対応している。また、状況に応じて利用者が希望する場所への送迎をしたり、車いす対応型自動車の貸し出しなどを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として従来のかかりつけ医に引き続き受診しており、往診を依頼することもある。医療機関に協力いただけるように、また、適切な医療を受けることができるように、連絡を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、看取り介護までは実施していないことに理解を求めている。緊急時の対応については利用者・家族の意見を聞いているが、重度化や終末期については、対応できるサービスも、現在検討段階である。	○	重度化や終末期の過ごし方について、本人・家族からの要望の聞き取りをできる限り早期に行い、かかりつけ医や職員が、方針を共有しておくことが望まれる。現在、意向確認の方法や書式等を検討中であるので実践化を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	丁寧なことばづかいで話し、誘導などもさりげなく行われている。居室への出入りには、必ず本人の了解を得ていた。また、入浴やトイレ介助は、できる限り同性の職員が対応するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の基準としての日課はあるが、起床や食事時刻なども本人のペースに合わせて支援している。その日に何をしてお過ごしすかも、本人の希望に沿って対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームではご飯と汁物を調理し、副食類は母体施設から調理済みのものが運ばれ、利用者が盛りつけをしている。職員は食事介助を中心にしており、利用者は会話もなく黙々と食べている。片付けでは一・二人が茶碗を洗ったりお手ふきや敷物をたたんでいる。	○	毎日の生活の中で重要な位置を占める食事の一連の過程の様々な作業を通じて、持てる力を引き出し、発揮できるような取り組みにさらに力を注がれることが望まれる。また、職員も同じ食事を一緒に食べたり、BGMを工夫するなど、楽しく食事できるような雰囲気づくりを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できることになっているが、実際には週に2.3回の利用者が多い。複数で入浴できる浴槽、個室、機械浴があり希望により選択している。失禁時などはシャワー浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	小菜園に夏野菜を作ったり、誕生会などのイベントで、おほうとうや焼きそばなど食事づくり、おやつづくりなどを行い、得意な分野に参加して利用者の持てる力が発揮できるように支援している。花見や紅葉がり、外食なども実施し気分転換を図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車いす利用者も含めて少人数ずつで、ホーム近辺の散歩に出かけている。冬期には、インフルエンザ対策として外出は少なくし、施設内での体操などにより身体を動かすようにしている。敷地内のあずまやを利用することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠していない。外に出る利用者には、同行するなど見守りにより安全を確保している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体施設の避難訓練に合わせて、年2回(日中・夜間を想定)避難訓練を行っている。スプリンクラーや自動火災報知器など防災設備が整備されており、備蓄もしている。災害時の地域の協力については話し合いがされていない。	○	防災設備等は整えられているが、限られた人員で避難救出を行うことに備えて、地域の人々の協力が得られるように働きかけをされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の栄養士による栄養バランスのとれた食事が出されており、摂取量も記録している。水分としては、朝夕の食事に汁物があり、食事時のお茶、おやつとして牛乳などが摂られている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の玄関から左右に分かれてユニットごとに広い居間があり、一部畳敷きのスペースもつくられており、ゆったりと過ごせる場となっている。強い日差しは、カーテンで調節し、適温に管理されている。不快な臭いもない。カレンダーや果樹園など周囲の風景からも季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台、収納戸棚、電話が設備され、ベッドはホームで用意したものを使用しているが、馴染みの寝具を持ち込み、収納棚には洋服掛け、置物、家族写真、作品など利用者の好みのしつらえがされている。		